

情報元：南海日日新聞社  
日付：令和2年11月17日

## 学校存続の効果を解説

—知名町—

### 「高校魅力化P J」で藤岡さん講演

Uino（東京都）代表取締役で産業能率大学教授の藤岡慎二さんが講演。プロジェクトの考え方を説明し、「学校存続はゴールではなく結果。存続を目指す高校に誰も行かせたがらない。生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が生かしたいと思う魅力づくりを」と強調した。

高校魅力化プロジェクトは、学校、行政、地域住民が協働し、魅力的な学校をつくることで学校存続や地域活性化につなげる取り組み。海士町の県立高校で始まり、全国各地の自治体で導入されている。講演会は、島民にプロジェクトへの理解を深めてもらおうと初開催した。

【沖永良部総局】講演会「いとも島の未来×本気×高校魅力化プロジェクトから考える」（知名町主催）は14日、知名町のおきえらぶ文化ホールあしひの郷・ちなでであった。島根県海士町で同プロジェクトに携わったPrimapings

地元高校生にオンラインで質問に答える藤岡さん（手前）14日、知名町



藤岡さんは高校存続が地域にもたらす経済効果や人口減対策につながることを研究資料などを示して解説。▽その地域・学校でなければ学べないカリキュラム改革▽学力・進学保証をする公営塾の設置▽全人教育でリーダーシップやコミュニケーション能力を育む

70人が来場したほか、オンラインで和泊町の結ホールや沖永良部高校、自宅などから33人が聴講。講演後に質疑応答があった。沖永良部高校生から「藤岡さん

が思う魅力的な高校は」との質問に、藤岡さんは「理想の高校はここだというのがあえて言わないでおきたい。学校、地域、行政が協働し、魅力化に向けて話し合っている状態で半分成功かなと思う」と答えた。